

■ 株式の状況 (2007年6月30日現在)

発行可能株式総数	120,000,000株
発行済株式の総数	31,931,900株
株主数	7,187名

所有者分布状況

区分	株主数(名)	株式数(株)	議決権比率(%)
証券会社	7	6,126	0.02
外国人	10	1,852,700	6.30
金融機関	15	2,835,362	9.64
その他法人	66	12,514,712	42.55
個人その他	7,089	14,723,000	41.49
合計	7,187	31,931,900	100.00

(注) 議決権比率は中間期末現在の総株主の議決権数に対する比率で、小数点第3位を四捨五入しております。

■ 株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
定時株主総会	3月下旬
単元株式数	100株
配当金受領株主確定日	12月31日
中間配当金受領株主確定日	6月30日
基準日	定時株主総会については、12月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日

<株式の名義書換>

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社

同事務取扱所 (お問い合わせ先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

同取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店・全国各支店

公告方法 電子公告により、当社ホームページ
(<http://www.joyfull.co.jp/>) に掲載いたします。
なお、やむを得ない事由により、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行なうものとします。

株主様向け
アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 9942

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間(2007年11月30日まで)です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
TEL: 03-5777-3900 MAIL: info@e-kabunushi.com

株式会社ジョイフル



第33期 中間報告書

2007年1月1日から2007年6月30日まで

銘柄コード：9942

株式会社ジョイフル

本社/〒870-0141 大分市三川新町一丁目1番45号 TEL.097-551-7131



一つひとつの施策と組織力を融合することで さらなる事業展開を行なってまいります。



代表取締役社長
穴見 陽一

既存店に特化した施策の成果が現れてきました

株主様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。第33期の中間決算をご報告するにあたりひと言ご挨拶申し上げます。当中間期の日本経済は、緩やかな回復基調が継続する一方で、原価の高騰や食に対する信頼を損ねる事件が相次ぐなど厳しい事業環境にありました。その中において当社は、新規出店を控えて既存店のサービスレベル向上にむけた施策を継続しました結果、売上高は中間決算公表以来6期連続の増収となりました。

“いつも何かが新しい” 商品施策が支持されています

当中間期の業績が堅調だった要因のひとつとして、「いつも何かが新しい」(something new) をコンセプトにした商品施策があげられます。本年3月に導入した「春夏ランドメニュー」、また計8回(38品)にのぼる「月替りフェア」等の商品はお客様から大きな支持を得て、上半期全ての月において既存店売上高が前年比100%を超えて推移いたしました。

さらにファミリーレストランを利用する動機として欠かせないドリンクバーもリニューアル。豊富なメニューと上質な味、くつろぎやすい空間を重視した“Joycafe”を全店に導入したことも中間期の業績向上へ貢献することになりました。

徹底したコスト管理で原価高騰を打開しました

原価の高騰が続く中、当社は徹底したコスト管理に努めています。2005年から取り組んだ水道光熱費については1年半で約1億6千万円削減を達成しました。また、テレビ会議システムの導入によって会議に際し要していた旅費交通費を大幅に削減しました。

賞味期限に関する自主調査を実施しました

当社では、食に携わる企業としての社会的責任を果たす観点から、ファミリーレストランジョイフルの全店について、食材・商品の賞味期限に関する自主調査を実施しました。結果として人体には影響がないものの、75店・16種類の食材・商品で賞味期限切れの在庫があることが判明しました。当社は、そうした事実を真摯に受けとめ、お詫び申し上げるとともに、社内の衛生管理体制をさらに強化することで、お客様からの信頼回復に努めています。

さらなる前進に向けた戦略を実行します

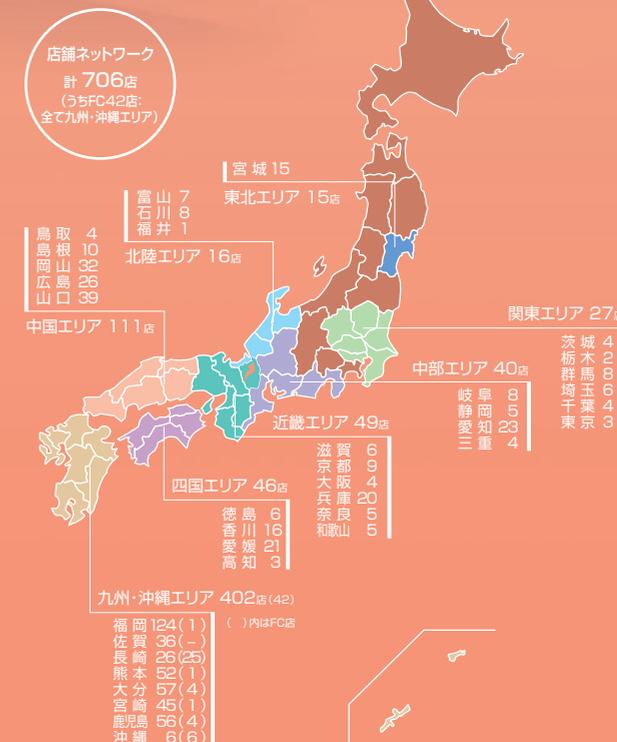
当社では本年7月1日付をもって経営の意思決定の迅速化と業務遂行役割の明確化を図るため執行役員制度を導入しました。また、下半期に向けてはお客様に受け入れられる店づくりを実現するため、月替りフェアの継続、キッズ向け商品施策等を実施するとともに、海外出店の準備室を設置するなど次なる展開に備えてまいります。

株主の皆様におかれましては、当社の状況にご理解を賜り、今後ともご支援をいただきますようお願い申し上げます。

社名	株式会社ジョイフル
本社所在地	大分市三川新町一丁目1番45号 ●大分工場/大分市三川新町一丁目1番45号 ●大分配送センター/大分市下郡中新地3410-1 ●福岡配送センター/福岡県福岡市中央区那の津五丁目8番28号 ●熊本工場・配送センター/熊本県菊池市大字袈裟尾字下大迫445-4 ●愛知工場/愛知県宝飯郡御津町佐脇浜三号地1-17
創業	昭和40年6月
創立	昭和51年5月
従業員数	1,372名 上記従業員のほかにパートタイマー 7,265名(8時間換算)を雇用しております。
主要な事業内容	「ファミリーレストランジョイフル」のチェーン展開
連結子会社	株式会社ジョイフルサービス

Network 店舗一覧

(2007年6月30日現在)



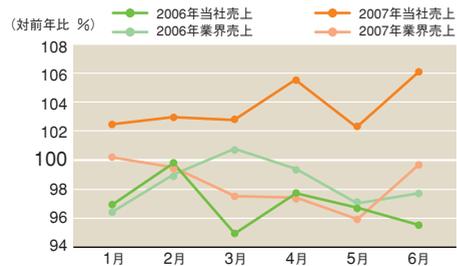
上質の味とくつろぎの空間へ。 “Joycafe”全店導入完了!!

バリエーション豊富なドリンクバーに変身!

■ “Joycafe” 導入でお客様満足度も向上

当社では本年1月より新ドリンクバー“Joycafe”の設置を開始しました。これは、上品な味とくつろぎの空間をコンセプトに従来のドリンクバーを全面リニューアルしたもので、本年6月末までに全店への導入が完了しました。ドリンクバーの魅力度は、お客様がファミリーレストランを利用される動機の中でも大きな割合を占めています。おかげさまで、当中間期において、好調な既存店売上を牽引する役割を果たしました。

■ 月次売上前年同期比伸び率の推移



新ドリンクバー ジョイカフェ を大解剖

■ 新ドリンクバーは37種類のラインアップ!!

新ドリンクバーの特徴はなんといっても37種類というラインアップの豊富さにあります。基本メニューであるコーヒーは飲みやすいブレンドとほろ苦い深煎りやカプチーノなどをご用意。ティーバッグも5種類、また期間限定のスペシャルドリンクマシンも設置しています。なお、お客様に人気のソフトドリンクは、メニュー数の充実はもとより、小さなお子様が注ぎやすいように、台の高さを考慮して設計しました。

■ ホットドリンクの充実とホット専用カップの導入



“Joycafe”ではお客様のご要望が多かったホット専用カップをご用意。真っ白な陶器のカップでお好きなだけ、ゆったりとジョイカフェをお楽しみいただけます。

コーヒーマシン

コーヒーマシンを一新。その場で豆挽きするので、より香りが高く新鮮なコーヒーをご提供できます。お子様向けに甘味を加えた子供用ココアも登場!



ティー各種

ティーバッグは紅茶・緑茶・フレーバーティーをご用意。お好みでシュガーやクリーム、レモンをお使いください。



ジョイカフェのマークは私たちの思い



マークに書かれている英文は、“We always serve great taste coffee & beverages”。“私達は、いつも素晴らしいコーヒーと飲料を提供します”という意味です。



ソフトドリンク

お子様が自分で注げる ドリンクバー



キッズドリンク

周りに比べて台の高さを抑えているのでお子様にもドリンクバーを楽しんでいただけます。ドリンクの種類も、お子様に人気の6品をラインアップ。



スープバー

コーンスープ、クラムチャウダーなどのスープをご用意。



スペシャル ドリンクマシン

抹茶ラテなどのスペシャルドリンク。



飲み残りシンク

お客様がカップの中身を空けたり、洗ったりできるように、シンクと蛇口を設置しました。

氷 (アイスビン)

カウンターの2箇所に、埋め込み式のアイスビンと氷スコップ入れを設置しました。

月替りの期間限定メニューの提供で “いつも何かが新しい”を実現

今期の商品開発の基本コンセプトは、“いつも何かが新しい”。ご来店いただくお客様に新鮮さと満足を感じていただきたいと考えています。そのために本年3月には「春夏グランドメニュー」を導入、4月メニューから「月替りメニュー」を展開しました。

4月 月替り

- ・チキンバスケット
- ・チーズハンバーグ & サイコロステーキ
- ・練乳ムースベリー
- ・豆乳プリン



ハンバーグ & サイコロステーキ



チキンバスケット

5月 月替り

- ・スパゲティ・アラビアータ
- ・サーロインステーキ
- ・ポローニャ風ラザニア
- ・よくばりオムバーグ
- ・お抹茶パニラ
- ・皐月の和風三種



スパゲティ・アラビアータ



サーロインステーキ

5~6月
ステーキフェア

夏 フェア

第1弾

- ・焼肉定食
- ・鰻のひつまぶし
- ・山芋とオクラのねばねばサラダうどん
- ・カキ氷(メロン)
- ・カキ氷(マンゴー)
- ・カキ氷(イチゴ)
- ・カキ氷(宇治金時)



鰻のひつまぶし



ねばねばサラダうどん

第2弾

- ・赤カレー(ホットシーフードカレー)
- ・黒カレー(スパイシーカシミアカレー)
- ・白カレー(マイルドスープカレー)
- ・黄カレー(ハンバーグカレードリア)



赤カレー・黒カレー

6月 月替り

- ・紀南高梅のさっぱりスパゲティ
- ・パニラカフェゼリー
- ・トロピカルマンゴーパフェ
- ・よくばりトルコライス
- ・ポローニャ風ラザニア



よくばりトルコライス



ポローニャ風ラザニア

キッズ世代にもジョイフル感動体験を！ 「ジョイキッズ」はジョイフルの未来戦略

本年7月からはキッズメニューを改定しました。これは、お子様に「ジョイフルに行きたい」と思ってもらうとともに、お子様+ご両親(+α)の来店を促すものです。同時に、今のキッズ世代に「ジョイフル=楽しい、うれしい」体験をしてもらい、そのお子様が成長してからも、世代を受け継いでジョイフルを利用していただく未来戦略(Next generation戦略)の一環でもあります。



あつあつグラタン
(おもちゃ付き)

キッズジョイカフェ



キッズアイス

パニラアイス
ストロベリーシャーベット



プチプチいくらたまご丼



わくわくコンボ
(おもちゃ付き)



ぱくぱくカレー
(おもちゃ付き)



つるつるうどん

'07秋冬メニューにも 新たな発見を！

お客様のウォンツを創造

秋冬商品のポイントは多彩なメニューを選ぶ楽しさ。秋冬定番のカキフライなど、季節感ある食材をはじめ、定番商品もブラッシュアップを図りました。



温玉つくね
お酒やごはんが進みそう！



野菜たっぷり
煮込みハンバーグ
野菜の栄養もとれこんで。



サーモンいくら丼
ゴールデンコンビ、
サーモン&いくら。



ハンバーグ&
サイコロステーキ
月替りメニューで大好評でした。



よくばり定食
人気No.1をあらそうメニューです。

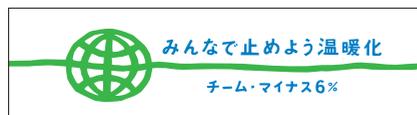
新しい店舗マネジメント制度構築のための
人づくり&社内啓発を行なっています。

既存店のさらなる強化を図る観点から、導入から4年を経たSI制度(統括店長制度)を来期「新・店長SV制度」に変更。店長のマネジメント力を強化することで営業利益の達成、店舗販売力のさらなる向上をめざしています。

本年1月には店舗社員の教育指導強化を目的に「店舗オペレーション指導部」を設置、各エリアごとの研修会や育成研修などを当上半期で、延べ905名の店舗勤務社員が受講するなどして、サービスのレベルアップに努めています。

チーム・マイナス6%の
“チーム員宣言”を行ないました。

地球環境は今、深刻な局面を迎えています。日本は、地球温暖化に悪影響を及ぼすCO₂を各国が6%削減することを定めた京都議定書に調印し、「チーム・マイナス6%」の運動に取り組んでいます。当社も企業としての社会的責任を果たす観点から大分県の本社がチーム・マイナス6%の「チーム員宣言」を行ない、積極的に取り組んでいます。



水道光熱費で1億6千万円削減を達成。
次のテーマは営業利益率向上です。

第31期下期から水道光熱費の削減に取り組み、1年半で1億6千万円の削減を実現しました。当中間期からは店舗P/Lの改善に取り組み、営業利益率の向上を図ります。ただし過度にコスト削減に努めるのではなく、お客様にご満足いただく施策の実施と適切なコストコントロールによって、営業利益の増大、お客様満足度の向上を図ってまいります。

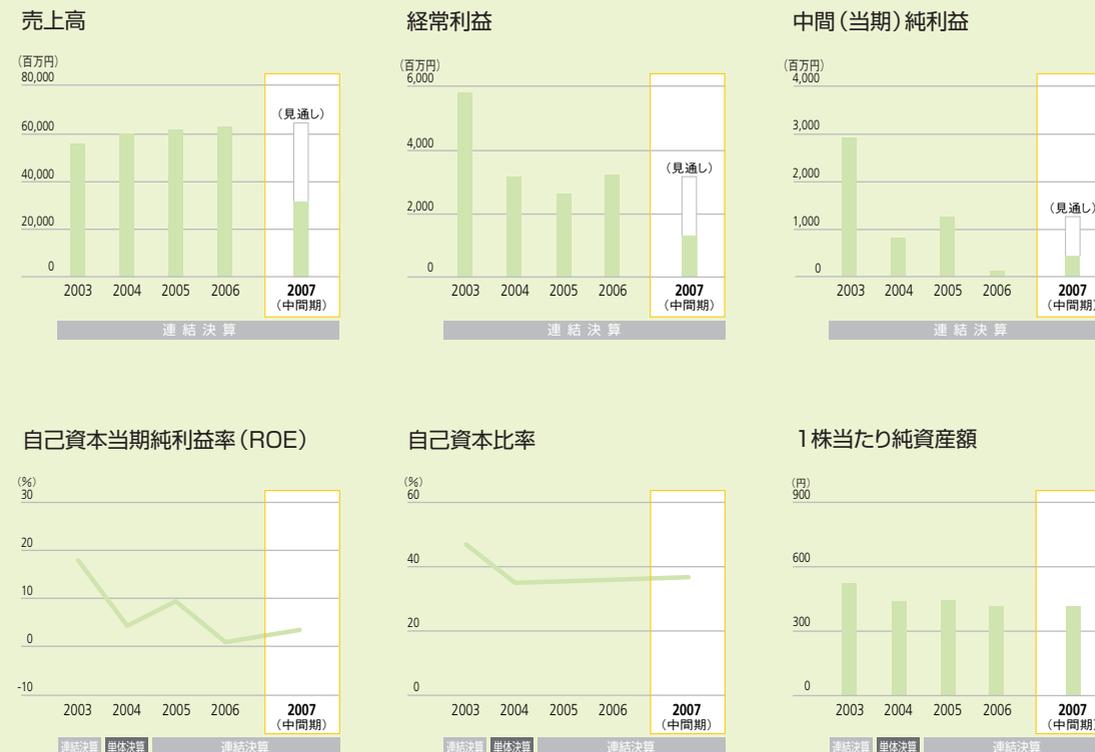


賞味期限の自主調査から集中クリーンまで
衛生管理体制を強化しました。

食の安心・安全に対する関心が高まっていることから、当社は賞味期限に関する自主調査を行いました。また、その結果をマスコミを通して社会に報告するとともに、衛生管理、品質管理をさらに厳正化。従業員の衛生管理教育を行うなど、全社一丸となって対策を講じました。

賞味期限・消費期限管理
の体制厳正化

- 配送時の小ロット化の実施
- 店舗作業ルールの変更(日次、週次の賞味期限、並びに消費期限の管理ルールの厳正化)
- 衛生管理基準の変更 等



	2003	2004	2005	2006	2007	
					中間期	通期(見通し)
売上高	56,050	60,326	61,798	62,911	31,468	64,701
経常利益	5,778	3,162	2,610	3,197	1,243	3,116
中間(当期)純利益	2,920	812	1,262	106	435	1,251
自己資本当期純利益率(ROE)	18.1	4.5*	9.7	0.8	3.5	-
自己資本比率	46.9	35.2*	35.5	35.7	36.1	-
1株当たり純資産額	523.34	440.88*	444.14	417.58	417.37	-

※2004年6月1日に連結対象子会社を全て吸収合併したため、2004年期末の連結貸借対照表は作成しておりません。従いまして*印部分は単体決算数値を掲載しております。

中間連結貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

科目	当中間期末 (2007年6月30日現在)	前期末 (2006年12月31日現在)
資産の部		
流動資産	5,683,762	5,120,512
固定資産	28,308,003	29,280,135
資産合計	33,991,766	34,400,647
負債の部		
流動負債	11,670,835	11,972,398
固定負債	10,045,969	10,146,823
負債合計	21,716,804	22,119,221
純資産の部		
株主資本	12,265,524	12,271,816
資本金	1,596,595	1,596,595
資本剰余金	2,390,432	2,390,432
利益剰余金	12,048,402	12,054,539
自己株式	△ 3,769,905	△ 3,769,750
評価・換算差額等	9,436	9,609
その他有価証券評価差額金	9,436	9,609
純資産合計	12,274,961	12,281,426
負債・純資産合計	33,991,766	34,400,647

中間連結株主資本等変動計算書（要旨）

当中間期（2007年1月1日から2007年6月30日まで）

（単位：千円）

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式			
2006年12月31日 残高	1,596,595	2,390,432	12,054,539	△3,769,750	12,271,816	9,609	12,281,426
中間連結会計期間中の変動額							
剰余金の配当	—	—	△441,160	—	△441,160	—	△441,160
中間純利益	—	—	435,023	—	435,023	—	435,023
自己株式の取得	—	—	—	△155	△155	—	△155
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額（純額）	—	—	—	—	—	△173	△173
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	△6,137	△155	△6,292	△173	△6,465
2007年6月30日 残高	1,596,595	2,390,432	12,048,402	△3,769,905	12,265,524	9,436	12,274,961

POINT
資産について

当中間期末における総資産は、339億9千1百万円となり、前期末に比べ、4億8百万円減少しました。

流動資産は、支払家賃の会計処理を現金主義から発生主義に基づく計上方法への変更における前払費用の増加等により前期末に比べ、5億6千3百万円増加いたしました。

固定資産は、有形固定資産の減少10億7千4百万円や繰延税金資産の増加1億1千2百万円により前期末に比べ、9億7千2百万円減少いたしました。

POINT
負債について

当中間期末における負債合計は、217億1千6百万円となり、前期末に比べ、4億2百万円減少いたしました。

流動負債は、賞与等による未払費用の増加6億円や短期借入金の減少3億円、未払法人税等の減少4億5千2百万円等により、前期末に比べ3億1百万円減少いたしました。

固定負債は、長期借入金の減少3億3千8百万円等により前期末に比べ、1億円減少いたしました。

POINT
純資産について

当中間期末における純資産は、122億7千4百万円となり、前期末に比べ、6百万円減少いたしました。自己資本比率は36.1%となり、前期末に比べ、0.4ポイント向上しております。

中間連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	当中間期 (2007年1月1日から 2007年6月30日まで)	前中間期 (2006年1月1日から 2006年6月30日まで)
売上高	31,468,268	30,345,929
売上原価	11,249,328	10,875,235
売上総利益	20,218,939	19,470,693
販売費及び一般管理費	19,138,011	18,283,397
営業利益	1,080,928	1,187,296
営業外収益	286,462	165,098
営業外費用	124,063	103,108
経常利益	1,243,326	1,249,286
特別利益	315,075	22,707
特別損失	520,274	1,488,454
税金等調整前中間純利益（△純損失）	1,038,127	△ 216,461
法人税、住民税及び事業税	625,245	561,726
法人税等調整額	△ 22,141	△ 496,410
中間純利益（△純損失）	435,023	△ 281,777

中間連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	当中間期 (2007年1月1日から 2007年6月30日まで)	前中間期 (2006年1月1日から 2006年6月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,095,992	2,049,839
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 135,202	8,804
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 856,548	△ 2,822,613
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増加額（△減少額）	104,241	△ 763,970
現金及び現金同等物の期首残高	3,201,170	2,035,731
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,305,411	1,271,761

キャッシュ・フローの状況について

■営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、10億9千5百万円（前年同期比46.5%減）となりました。主な増加要因は、税金等調整前中間純利益10億3千8百万円、減価償却費8億6千5百万円、減損損失2億9千8百万円、未払費用の増加額5億9千9百万円であり、主な減少要因は、前払費用の増加額6億3千4百万円、法人税等の支払額10億7千3百万円です。

■投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、1億3千5百万円となりました。主な内訳は、有形・無形固定資産取得による支出1億4千5百万円です。

■財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、8億5千6百万円となりました。収入の主な内訳は、長期借入金の借入収入11億円、社債発行収入2億9千6百万円であり、支出の主な内訳は、長期借入金の返済支出14億1千7百万円、配当金の支払額4億3千9百万円、短期借入金の返済3億円等です。

これらの結果、当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は前年同期末と比べ、20億3千3百万円増加し、33億5百万円となりました。